

一般質問通告一覧

令和4年2月島田市議会定例会

令和4年3月7日・8日・9日本会議

島田市議会

◎ 発言順位

令和4年3月7日（月）

（頁）

【代表質問】

5番	天野 弘	議員	（清流の風：包括質問）	-----	1
11番	横田川 真人	議員	（島和の会：一問一答）	-----	3
16番	森 伸一	議員	（島田市民会議：包括質問）	-----	4
15番	桜井 洋子	議員	（日本共産党島田市議団：一問一答）	-----	5
18番	清水 唯史	議員	（創造島田：一問一答）	-----	6
10番	村田 千鶴子	議員	（緑風しまだ：一問一答）	-----	7

令和4年3月8日（火）

【個人質問】

14番	横山 香理	議員	（一問一答）	-----	8
3番	青山 真虎	議員	（一問一答）	-----	9
8番	山本 孝夫	議員	（一問一答）	-----	10
6番	曾根 達裕	議員	（一問一答）	-----	11
12番	大関 衣世	議員	（一問一答）	-----	12
1番	井上 篤	議員	（一問一答）	-----	13

令和4年3月9日（水）

7番	四ツ谷 恵	議員	（一問一答）	-----	14
2番	石川 晋太郎	議員	（一問一答）	-----	15
17番	八木 伸雄	議員	（一問一答）	-----	16
4番	提坂 大介	議員	（一問一答）	-----	17

○一般質問の質問時間の目安

（3月7日）

質問者	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目
質問時間	9:30～ 10:30	10:30～ 11:30	11:30～ 13:30 休憩含む	13:30～ 14:30	14:30～ 15:30	15:40～ 16:40

（3月8日は6人、9日は4人）

質問者	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目	6人目
質問時間	9:30～ 10:20	10:20～ 11:10	11:10～ 12:00	13:00～ 13:50	13:50～ 14:40	14:50～ 15:40

※ あくまでも目安です。

議員により質問時間は変動しますので、あしからず御了承ください。

【代表質問】

1. 5番 天野 弘 議員（清流の風） （包括質問）

1. これからの当市の産業振興と地域活性化への取組について

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は既に2年にも及び、社会的、経済的に大きな影響を与えている。度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、観光産業や飲食業には危機的な状況を引き起こしている。特に、今回の第6波では多くの感染者を出しており、一日も早い収束を願うところである。今後は、痛手を受けた経済や地域活動の一刻も早い立て直しが求められ、アフターコロナとして、産業振興や地域活性化が重要な課題になってくるとも思われる。

今後の当市の将来像を示す第2次島田市総合計画後期基本計画（案）では、各種施策を実現するための3大戦略として、循環型社会、縮充及びDXの3つの指針が示されている。新型コロナウイルス感染症の収束に向けて、さらに収束後の当市の産業振興及び地域活性化についてどのように取り組んでいくか、質問する。

- (1) 新型コロナウイルス感染症が当市の経済や地域活動に与えた影響について
 - ① 税収はどのようになっているか。
 - ② 雇用状況はどのようになっているか。
 - ③ 飲食業界や商店街の状況はどのようになっているか。
 - ④ 市民生活や地域活動において、流行前後で大きく変化したと考えられることは何か。また、今後どのような影響をもたらすと考えるか。
- (2) 農林業は、かつて重要な産業であったが、現在では茶業及び林業の生産額の大きな低下と従事者数の減少が顕著になっている。特に市域の多くを占める中山間地域では就労場所としても、茶業と林業は重要な産業である。今後の農林業振興の取組について伺う。
 - ① 人・農地プランの進捗状況と、その結果に基づく農業振興をどのように進めていくか。
 - ② 国が策定した「みどりの食料システム戦略」をどのように捉えているか。特に有機農業の取組をどのように考えているか。
 - ③ 森林整備や林業振興のため、森林環境譲与税をどのように活用していくか。
- (3) 観光は、飲食業と同じく新型コロナウイルス感染症流行の影響を大きく受けた業種であるが、収束後には再び重要な産業として脚光を浴びることが予想される。このことから、蓬萊橋や川越し街道を含めた観光産業の振興について伺う。
 - ① 観光協会を一般法人化し、その後、DMO（観光地域づくり法人）の形成を目指すとしている。DMOとはどのような組織で、観光協会との違いは何か。また、DMOの登録団体に移行することについて、メリットとデメリットは何か。
 - ② 川越し街道の観光資源としての整備の進捗状況はどうか。
 - ③ 稼ぐ観光を目指しているが、具体的にはどのようなことを目指していくか。また、観光で経済を活性化していくためには何が必要でどのようなことが求められるか。
- (4) 中心市街地の活性化とリノベーションによるまちづくりについて、コロナ禍により商店街の空き店舗が急速に増加している。市では、従来の区画整理事業によらない中

心市街地の活性化に取り組んでおり、現在の状況と今後の見通しについて伺う。

- ① リノベーションまちづくりの実績はどのようになっているか。
 - ② 今後の計画と見通しをどのように判断しているか。
 - ③ 当該事業に対しての地元や地域の反響はどうか。
- (5) 第2次島田市総合計画後期基本計画（案）における各種施策を実現するための3大戦略として掲げている循環型社会、縮充及びDXの3つの指針について
- ① 縮充の考え方について理解できるが、アフターコロナにあっては、緊縮財政ではなく、積極財政も必要ではないかと考えるがどうか。
 - ② 循環型社会への取組は、カーボンニュートラルやSDGs社会を目指す中では重要と考える。当市は、大井川の水に恵まれたまちであり、電力会社以外にも水力発電施設が稼働しているが、小水力発電等の導入の取組はどうか。
 - ③ DXの取組は大変重要であると考えます。電子申請や電子決裁の市行政におけるデジタル化の導入の進捗状況及び地域産業の活性化に対しての取組状況はどうか。

2. 11番 横田川 真人 議員 (島和の会) (一問一答)

1. 施政方針中のキーワードについて

令和4年度の施政方針において幾つかのキーワードが出ている。これらは継続して使っているものもあるが、新しいものもある。市の方向性を定める上でも大変重要なことであるため、以下質問する。

(1) DXについて

- ① これまでの取組の成果はどうか。
- ② 令和4年度におけるDXの目標は何か。
- ③ 長期的にはどのようなことを目指しているか。

(2) 縮充について

- ① 平成30年から使い始めた言葉だが、4年の間に縮充に当てはまることはどのようなものがあったか。
 - ② 公共施設の在り方について、今後の展望はどうか。
 - ③ コンパクト・プラス・ネットワークにおいて、中山間地域のネットワークをどのようにしていくか。
 - ④ 縮充の到達点をどのように考えているか。
- (3) 多様性について、「尊重する共生社会の本格的な始まりを感じ取った」とあるが、今後の当市の施策に反映する考えがあるか。

2. 施政方針中の総合計画について

施政方針の中では、後期基本計画についても触れている。今後4年間の方向性を示す基本計画で、更なる発展を目指していることと思う。発展を示す指標が人口である。知ってもらい、来てもらい、気に入ってもらえて定住までつなげてほしい。そこで、以下質問する。

- (1) 観光について、当市の観光資源とは、どのようなものがあると認識し、どのように活用して観光客を呼び込むか。
- (2) スポーツの振興について、東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、「これまで以上にスポーツの持つ素晴らしさを感じた大会」とのことである。この熱を一過性のものとしないうる形でのスポーツ振興策が求められる。今後のスポーツ振興はどのような考えか。
- (3) 教育について、「島田市でなら安心して子育てができる」と思ってもらえるように努めるとのことだが、いじめや貧困への対策はどのように考えているか。

3. 16番 森 伸 一 議員（島田市民会議） （包括質問）

1. 令和4年度施政方針と予算の大綱について

染谷市長は先日、「今、踏み出すとき、このまちの未来のために」というサブタイトルをつけた来年度の施政方針を述べた。これに関して、以下質問する。

(1) ゼロカーボンシティの実現について

- ① 脱炭素シンポジウムの開催がうたわれているがどのような内容か。
- ② 大井川流域産材を使用した住宅建築に対する助成を行い木材利用を促進することで、間伐等の森林整備が進むと思われるが、それに伴うCO₂吸収量についてはどのような見通しを立てているか。
- ③ 住宅用省エネルギー設備設置の補助で、定置型リチウムイオン蓄電池と家庭用燃料電池の設置を対象とした理由は何か。

(2) 観光文化部の新設について

- ① 文化資源を生かした観光について述べられているが、文化創造、研究という面も含め、文化についての市長の考え方はどうか。
- ② 博物館常設展示のリニューアルについては、どのような方針、博物館像を考えているか。
- ③ 今年、企画されている刀剣展の内容について、以前の刀剣展と違う目玉は何か。

(3) 誰一人取り残さない社会の実現について

- ① 子育て応援都市島田を目指し、ここ数年先進的な取組をしていると思う。新規の医療的ケア児保育支援事業を計画した経緯はどうか。また、以前の事業でさらに拡充したものはあるか。
- ② こども食堂の取組が各地で広がっている。当初の生活困窮者自立支援から地域の多世代交流の場、居場所づくりの役割が期待されている。こども食堂にどのような支援を考えているか。
- ③ 若者だけでなく中高年のひきこもり対策が課題となっているが、どのような対策を進めていくか。

(4) 地域ぐるみの教育環境をつくるについて

- ① 昨年度から各小・中学校区にコミュニティ・スクールが設置された。以前、質問したとき、成否はコーディネーター役にかかっている、小・中学校の連携が大事との答弁だったが、どのようになったか。
- ② 地域学校協働本部の現状と今後の課題について、どのように考えているか。
- ③ 学校統合による校舎の活用や地域の賑わい創設の動き、協議が進められている。湯日や笹間地区の事例は、今後の地域の振興を考える上で参考になりそうであると考える。閉校後、校舎等の資産の活用を地域が一体となって進める体制づくりをどのように進めていくか。

4. 15番 桜井洋子議員（日本共産党島田市議団） （一問一答）

1. ジェンダー平等の市政に

日本は、各国の男女平等の達成度を示すジェンダーギャップ指数2021で、156か国中120位と先進国として異常な低位が続いている。また、コロナ禍において、低賃金の非正規雇用で働く多くの女性が仕事を失い、ステイホームが強いられるもとのDV被害が急増し、女性の自殺の増加は男性の5倍にも達したと報道されている。このような女性を取り巻く深刻な状況の中、社会制度や仕組みに女性の視点や意見を取り入れることが重要な課題であり、持続可能な開発目標SDGsの「5. ジェンダー平等の実現」を市政に生かすことが求められている。そこで、以下伺う。

- (1) 第3次男女共同参画行動計画のうち、「政策・方針決定過程への女性参画の拡大」の進捗状況について
 - ① 市の審議会等への女性委員の登用促進についてはどうか。
 - ② 市の女性職員の管理・監督者への登用促進についてはどうか。
 - ③ 地域や各種団体における女性の参画促進についてはどうか。
 - ④ 女性の人材育成の取組についてはどうか。
- (2) 市職員（一般行政職員、会計年度任用職員）の女性比率はどうか。健康で働き続けるために出産、育児、介護、生理休暇などの必要な休業、休暇を取得できる体制は取れているか。
- (3) 性の多様性（LGBTQ）を尊重し、性的少数者を支援するため、パートナーシップ宣誓制度を取り入れる自治体が増えている。当市の取組はどのようになっているか。

2. 国民健康保険税について

コロナ禍で市民の暮らしや営業の厳しい状況が続いている中、市民から高すぎる国民健康保険税に悲鳴が上がっている。令和4年度も引上げが実施されようとしており、市の軽減対策が必要である。国民健康保険税の引下げを求め、以下伺う。

- (1) 国は、4月から未就学児の均等割額を5割に軽減する制度を始めるが、当市における均等割軽減区分ごとの金額、対象人数及び世帯数はどうか。
- (2) 市は、4月から国民健康保険税の基礎課税額の所得割を6.2%から6.6%に引き上げる。一世帯当たりの引上げ額はどうか。
- (3) 国の制度として実施されている新型コロナウイルス感染症の影響による減収等（3割以上）に対する国民健康保険税の減免実績はどうなっているか。
- (4) 現在、保険事業基金は約7億円となっている。これを活用し、国民健康保険税を引き下げるべきではないか。

5. 18番 清水唯史 議員（創造島田） （一問一答）

1. 令和4年度の市政運営の方向性について

令和4年度施政方針では、人口減少の中、いかに島田市を活力あるまちとして自立させていくかを各種施策に示しているのではないかと感じる。市長が述べる未来への鍵となる循環型社会、縮充、DXの各取組の方向性について、以下質問する。

(1) 循環型社会の取組について

- ① ゼロカーボンシティの具体的な取組を進めるため、市民に求めるものは何か。
- ② 地産地消のエネルギーの取組をどのように考えるか。
- ③ 市内における電力確保のためにどのように取り組むか。

(2) 縮充の示すまちづくりについて

- ① 縮充を前提にしたまちづくりとは何か。
- ② 市民がまちづくりに積極的に関わるとはどのようなことか。
- ③ GDW（国内総充実）とは何か、また、それをどのように測るか。
- ④ コンパクト・プラス・ネットワークを市民にどのように理解してもらおうか。

(3) DXの取組について

- ① DXとは何か改めて伺う。
- ② 市民にデジタル変革は何をもたらすか伺う。

2. ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたまちづくりについて

新型コロナウイルス感染症の社会的な影響は一昨年から2年を超えようとしている。その間には収束後を見据えた施策がとられてきているが、その出口が先へ、先へと行ってしまっていた。しかし、3回目のワクチン接種の推進と経口薬の承認などにより、以前のまん延時よりも収束の見通しも見えてくるものと推測される。そこで、今後のウィズコロナ、アフターコロナを見据えたまちづくりの取組について、以下質問する。

(1) 地域経済の回復支援のための取組について

- ① 事業者に対して今まで実施した支援策の効果をどのように認識しているか。
- ② 今までの勤労者の支援策と今後の考えはどうか。

(2) アフターコロナを見据えた観光施策について

- ① 観光を前面に展開するための市民への喚起をどのように考えるか。
- ② 文化と観光をどのように連携していくか。

(3) ウィズコロナの中での地域コミュニティについて

- ① 地域のコミュニティにはどのような影響があったか。
- ② 今後の地域コミュニティに対して変化をどのように考えるか。

1. 令和4年度施政方針と予算の大綱について

新年早々第6波の様相となり、本県も1月27日からまん延防止等重点措置が適用され、ピークアウトがなかなか見えない状況である。こうした中、新年度に当たり、施政方針と予算の大綱が示された。そこで、基本的なまちづくりの方針と新たな施策に係り、以下質問する。

- (1) 「本市の総合計画で初めて中山間地域の振興にかかる施策を明確に位置づけてまいります。」について
 - ① 中山間地域の振興に係る施策を明確に位置づけるとあるが、そのテーマは何か。
 - ② 国土利用計画、都市計画マスタープラン、過疎地域持続的発展計画及び辺地総合計画との整合をどのように図るか。
- (2) 「島田市観光戦略プランに掲げる基本戦略を推進するため、一般社団法人化する「島田市観光協会」を核に、観光に携わる民間事業者と連携しながら、大井川流域におけるDMOの形成を目指してまいります。」について
 - ① DMOを取り入れようとした根拠は何か。
 - ② 取り組むことで、まちづくりにどのように活かせるかと考えるか。
 - ③ 市内にどれほどのメリットがあると考えているか。
- (3) 「今後、人口減少・少子超高齢社会が進んでいく中においても、活力あるまちであり続けるためには、今以上に1人ひとりの「市民力」を高めて、まちづくりに活かしていくことが大事です。」について
 - ① 「市民力」とあるがその定義は何か。
 - ② 「市民力」を高めて、まちづくりに活かすとあるが、どのような意味か。また、市民参加や協働のまちづくりの理念との違いは何か。
- (4) 「医療的なケアが必要な乳幼児が保育所などに安心して入園できるよう、県内初となるガイドラインを設け、受け入れ体制を新たに整備してまいります。」について
 - ① 県内初となるガイドラインを作ることにした背景は何か。また、概要について伺う。
 - ② 受け入れ体制について、どのような整備を考えるか。
- (5) 「「島田市緑茶化計画」を旗印としたシティプロモーションにより、「地球上でもっとも緑茶を愛する街島田」の個性と魅力を効果的に国内外に発信してまいります。」について
 - ① 島田市緑茶化計画の実績と課題について伺う。
 - ② キャッチフレーズである「地球上でもっとも緑茶を愛する街島田」と言える根拠は何か。また、個性とは何か。
- (6) 「新庁舎建設に伴い執務室を集約することで、プラザおおりの本館及び東館に生じる空きスペースについては、改修に係る設計業務を進めてまいります。」について、今後の活用をどのように考えているか。

【個人質問】

7. 14番 横山香理議員 (一問一答)

1. 蓬萊橋右岸側の整備について

蓬萊橋右岸側のかわまちづくり計画は、令和4年度から令和8年度までの5か年計画としている。昨年11月7日から11月28日には、蓬萊橋右岸側の今後の利活用を検討するために蓬萊橋右岸「水辺イベント」を実施した。このようなイベントを行ったこともあり、右岸側に住む地域の人たちの関心も非常に高いものがある。こうしたことから、今回のイベント結果を踏まえ、今後、どのような整備をしていく計画であるか、以下質問する。

- (1) 11月7日から11月28日まで行われた各イベントの来場者数を伺う。
- (2) イベント開催において問題となった点と、それをどのように解決して開催したか伺う。
- (3) イベント主催者には、アンケート調査を実施したと聞くが、どのような内容で、どのような回答であったか、概要を伺う。
- (4) 今後、アンケート結果をどのように反映させていくか伺う。
- (5) 仮設道路が寸断されたままの状態であるが、この仮設道路の修復予定を伺う。
- (6) かわまちづくり計画は令和4年度からとなっているが、どのように整備し、いつ頃から着手する予定であるか、今後の方針を伺う。

8. 3番 青山真虎議員 (一問一答)

1. 島田第一小学校の建て替えや市内の危険通学路など、学校の諸課題について
学校関連の質疑をする。子供の立場になって考えて欲しい、以下質問する。

- (1) 島田第一小学校の新校舎建設について、図面が出来上がった時点で議員に配付されたが、提案不要との考えか。
- (2) 校舎の建設（建設中）を含めて、統廃合の問題点は何か。
- (3) 廃校により出る廃品や備品について、市民に払下げをしないか。
- (4) 伊太地区の小学生だけがバス通学から外れた場合、冬の登校は夜明け前になる。市の都合で廃校にするのだから、その責任としてバス通学にして最後まで面倒をみるべきと考えるがどうか。
- (5) 市内の危険通学路は何か所あるか。また、対策の難しい狭小道路はどのような対策を考えているか。
- (6) 授業方針や学校生活において、島田第一小学校の改築をきっかけに考えていることはあるか。

2. 稲荷浄水場の県移管に際し、塩素濃度が高まる問題について

稲荷浄水場が水道管更新の予算が厳しいことから、静岡県広域水道企業団への移管の方針が示された。移管となった場合、デメリットとして塩素濃度が高まるとの話であったが、水がまずくなれば地域の価値が下がるものとする。市として対策を立てる必要性を感じるがどうか。また、塩素が与える人体への影響はどうか。

3. 新型コロナウイルス感染症の若年層へのワクチン接種について

5歳から20歳以下（若年層）までの新型コロナウイルス感染症による重症化は極めてまれであり、ワクチン接種によるオミクロン株への感染予防効果は非常に疑わしい状況であるが、それでもまだワクチン接種を感染予防や重症化予防のために推進するか。また、若年層にみられる心筋炎などの副反応をなぜ過少評価するか。

9. 8番 山本孝夫議員 (一問一答)

1. 当市の中学校の部活について

私は、これまでにこのテーマについて、何回か議会等で取り上げてきた。文部科学省からの通知では、部活動についての考え方や、具体的方策、スケジュール等が述べられている。この通知に沿って当市の取組がどのように進められ、また、これから進めていくか、以下質問する。

- (1) これまでの取組の内容を伺う。
- (2) 取組の中でどのような問題点があるか伺う。
- (3) 問題解決のため、どのような議論がされ、解決策はどのようなものか。
- (4) 通知に示されたスケジュールどおり当市も進められるか。
- (5) 今後の部活動について、何か新しい取組などを考えているか。

2. 当市の防災の取組について

私は、当市の令和3年度地域防災リーダー養成講座に参加した。防災について再考する中で、このままで良いのだろうかと思うことが幾つかある。今回は、この講座修了者のその後について焦点を当てて考えてみたい。そこで、以下質問する。

- (1) この講座修了者は、令和3年度までで延べ何人になるか。
- (2) 講座修了者のうち、何人が実際に現在も地域防災に関わっているか。
- (3) 講座修了者の地域での関わりについて、問題点は何かあるか。
- (4) 市として、講座修了者にその後の活動に期待している姿を示しているか。また、最終的にどのような姿をつくろうとしているのか。

10. 6番 曾根達裕議員 (一問一答)

1. 地域経済とまちづくりについて

当市は、新型コロナウイルス感染症の対応に当たり、国、県と連携し実施してきた。また、市独自の政策にも取り組んでいるが、まだ収束の時期が見えない。

この新型コロナウイルス感染症の影響などにより、社会情勢と生活様式が大きく変化している中、経済にも相当な影響が及んでいる。特に、中小企業、小規模企業はその影響が大きく、事業の継続と雇用の維持を図ることが、大変厳しいと推察される。

そうした中、令和4年度の施政方針と予算の大綱の中で、施策分野の3つ目として、「地域経済を力強くリードするまちづくり」が記載されている。

今後、どのように地域経済を活性化させ、発展させていくか、以下質問する。

- (1) 地域で働く人材確保に対する施策は何か伺う。
- (2) 意欲ある勤労者への支援とシルバー人材センターへの運営支援の内容を伺う。
- (3) 企業PRを後押しする、中小企業をデータベース化する機能を持ったポータルサイトの立ち上げ状況について伺う。
- (4) 創業補助金により創業費用の負担軽減を図り、創業、起業を目指す人へ「多角的な支援に努めるが、この多角的な支援の内容について伺う。
- (5) 中心市街地活性化基本計画に基づき、商店街や関係機関と連携し、中心市街地の賑わいづくりを進めていくとあるが、具体的施策の内容について伺う。
- (6) 中心市街地における既存店舗の利用価値を高める施策とは何か伺う。
- (7) 認定農業者の経営改善に対する支援制度である、がんばる認定農業者支援事業の補助要件の一部見直しがあったが、詳細を伺う。
- (8) 茶業について、茶の販売拡大や消費拡大へと結びつけるため、どのような事業を行っているか。また、今後の消費拡大に向けた取組はあるか伺う。
- (9) 島田市観光戦略プランに基づき、デジタルマーケティングの手法による広告配信と分析とあるが、現状を伺う。
- (10) 島田商工会議所が市に対し行った令和4年度要望事項の中で、DX推進支援の一環として、施策の情報収集から個々の手続き、サービスが一貫してオンラインで完結するシステムの構築について要望があったが、これに対する現状はどうか伺う。

11. 12番 大 関 衣 世 議員 (一問一答)

1. 医療的ケア児の支援拡充について

2月2日付の静岡新聞に、当市として医療的ケア児の支援を拡充する計画があるとの記事が掲載された。文中に、「市独自で支援体制や手続きを定める事例は初めて」とあり、その取組が注目されている。医療技術の進歩により医療的ケア児が増加している現実がある中、就労支援をはじめとする市民福祉向上に向けた有意義な事業となることを期待し、以下質問する。

- (1) 事業化の経緯を伺う。
- (2) 事業内容を伺う。

2. 特別支援教育の取組について

令和4年度の新規事業として、特別支援教育等に要する経費が748万円計上されている。コロナ禍で増加傾向にある不登校児や、発達に課題を抱える児童・生徒の増加を鑑み、今後、拡充が必要となる取組であると考え、以下質問する。

- (1) 事業化の経緯を伺う。
- (2) 事業内容を伺う。

12. 1 番 井 上 篤 議員 (一問一答)

1. パブリックコメントの在り方について

当市においても様々な施策について、市民からの意見を聞くためにパブリックコメントを実施しているが、現状において意見を聞くための手段として機能しているか確認するため、以下質問する。

- (1) パブリックコメントが、どのような位置づけにあるか伺う。
- (2) パブリックコメントに寄せられた意見等の件数、人数、また応募者の重複具合を最新の物から3事業程度伺う。
- (3) パブリックコメントの応募者が最大の件数と最小の件数の事例を伺う。
- (4) どのような手段で募集をかけているか伺う。
- (5) パブリックコメントの現状に対して、どのように考えているか伺う。

2. 未舗装の道路について

都道府県知事や市町村長等から道路であると指定を受けた私道、いわゆる位置指定道路の中には、未舗装の場所が幾つもあるが、凹凸がつきやすく、雨になれば水たまりも出来やすい。災害発生時には、足の不自由な高齢者や障害者にとって避難の障害にもなりかねないものである。そこで、市内の位置指定道路の未舗装の現状について、以下質問する。

- (1) 市内の位置指定道路は何か所存在し、どのくらいの位置指定道路が未舗装であるか市では把握しているか。
- (2) 市道として認定する条件として、側溝があることや舗装してあることとあるが、公共性がある部分においては、緩和する考えはあるか。
- (3) 近隣市町の位置指定道路舗装の助成制度について、どのようになっているのか伺う。

3. 島田市立総合医療センターの現状について

島田市立総合医療センターが開設して約10か月が過ぎ、市民の中でも利用したことがある人も増えている現状で、市民から様々な声が届いていることと思う。そこで、当院の現状について、以下質問する。

- (1) 市民からの意見として、当院への良かった点、悪かった点は、どのようなものがあったか伺う。
- (2) 市民からの意見として、診療後の会計、予約に隣接市の病院に比べて長時間待たされたという声を聞くが、改善できる点はないか伺う。

13. 7番 四ツ谷 恵 議員 (一問一答)

1. 初倉地区の学校再編について

全国で学校統廃合が増え、小・中一貫校化に伴う実質的な統廃合も増加している。学校統廃合は、単に効率化や少子化によって学校が閉鎖されるという問題だけではない。子供たちの成長、発育や保護者にも大きな影響を与えている。学校が閉校となることによって、地域のコミュニティも薄れていくのではないか。また、小・中学校が一緒になり、大規模校になると子供たちへの行き届いた教育が出来にくくなるのではないかと危惧する。統廃合が始まってから10年以上経過している全国の経験に学び、小中一貫校のメリット・デメリットを認識した上で判断すべきと考え、以下伺う。

- (1) 初倉地区小中学校再編方針検討委員会の提言書が示す内容は何か。また、今後の再編に向けてのスケジュールはどうか。
- (2) 学校の職員会議等で十分に話し合った様子は見受けられない。この点について、どのように捉えているか。

2. 放課後児童クラブの待機児童対策について

留守家庭の放課後の子供の居場所として、放課後児童クラブは大事な役割を果たしてきた。コロナ禍でも開所され、需要はますます高まっており、充実を求め、以下伺う。

- (1) 4月からの各放課後児童クラブの入所状況はどうか。また、待機児童の状況はどうか。
- (2) 島田第一小学校の改築工事によって、一時的に放課後児童クラブは場所を移動せざるを得ないが、その対応策はどうか。

3. 小・中学校の女子トイレへの生理用品の設置について

昨年3月に「#みんなの生理」という団体がオンラインアンケートを行い、その結果として生理の貧困が浮き彫りになった。この問題は、タブー視され続けた風潮の中で、ジェンダー平等の課題として、メディア、また、国会、地方議会においても大きな話題となった。市内の学校ではどのような状況になっているか、以下伺う。

- (1) 小・中学校では月経衛生や健康について、どのような内容と方法で教育が行われているか。
- (2) 小・中学校での生理用品の整備と児童・生徒への提供はどのようなになっているか。
- (3) 小・中学校の女子トイレへ生理用品を設置するべきであると考えますがどうか。

14. 2番 石川晋太郎 議員 (一問一答)

1. 当市におけるDX推進の現状と今後について

我が国では、新型コロナウイルス感染症の対応において、地域、組織間で横断的にデータが十分に活用できないことなど、様々な課題が明らかになった。これを受け、国は令和2年12月にデジタル社会の実現に向けた改革の基本方針を閣議決定し、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を示した。また同日、閣議決定したデジタルガバメント・実行計画を受け、全自治体が円滑にデジタル社会の構築に向けて進んでいくよう、総務省は自治体DX推進計画を策定した。

一方、当市においては、令和元年11月に島田市デジタル変革宣言を行うとともに、その後、島田市DX推進計画、島田市DX推進計画アクションプランを策定し、DXの推進に取り組んでいる最中である。こうしたことを踏まえ、当市のDX推進に関する現状の取組と今後について、以下質問する。

- (1) 当市において、DXを推進するための組織体制及び外部人材登用について伺う。
- (2) 自治体情報システムの標準化、共通化に伴う実施手順と、実施に当たり、どのような検討事項があったか伺う。
- (3) 行政手続きのオンライン化に伴う検討事項の整理及び実施手順について伺う。
- (4) 市民のマイナンバーカード取得率向上に向けた今後の取組を伺う。

15. 17番 八木伸雄議員 (一問一答)

1. 医療の現状と対策について

当市の人口は平成27年に10万人を割り、現在、97,000人台と減少が顕著になった。人口減少の主な要因は出生率の減少である。一方、平均寿命が延びたことによる高齢者の増加は、当市に限らず、国、地方自治体の最大の課題である。人口構造の変化が医療、介護の中長期的な課題となっている。医療については、直面する新型コロナウイルス感染症が最重要課題である。ワクチン接種が感染防止の切り札であると言われ、進められた。それにもかかわらず、デルタ株の出現により、第5波ともいわれる感染が拡大し、結果、緊急事態宣言の発令となった。

その後、一旦収束したかに見えたものの、オミクロン株の出現で、3回目のワクチン接種が進行する最中、第6波の感染拡大となった。その結果、前回の緊急事態宣に続き、まん延防止等重点措置の適用となり、新型コロナウイルス感染症の不透明さが増す中で、市民の命を守る医療体制の維持がこれまで以上に問われることとなった。そこで、以下質問する。

(1) 新型コロナウイルス感染症対策について

- ① 新型コロナウイルス感染対策の切り札としてワクチン接種が進められている。2回、3回接種された人で感染し、入院した市民はいるか。いれば、それぞれの人数を伺う。
- ② ワクチン未接種の感染者で入院した市民はいるか。人数を伺う。
- ③ ワクチン接種をすることで重症化を防ぐと言われている。市立総合医療センターにおいて、新型コロナウイルス感染症で重症化した患者のワクチン接種の実態はどうか。
- ④ ワクチンの副反応の状況はどうか。

(2) 人口動態から推定し、全国的な医療のピークは4、5年後と言われている。医療のピークを迎えるに当たり体制を伺う。

- ① 当市の今後5年間の急性期の患者の動向をどのように予測し、市立総合医療センターの医療体制をどのように構築していくか。
- ② 在宅医療の現状と課題は何か。
- ③ 急激な高齢化に伴い、急性期医療から療養医療に変化することが考えられる。どのような対応を考えているか。
- ④ 市立総合医療センターの今後の財政面での課題をどのように捉えているか。

2. 介護の需要の増加に対する対応について

医療の先行き不安と同様、団塊の世代が介護を必要とする75歳以上に達する10年後が介護のピークと言われている。高齢者の増加、生産人口の減少が顕著になる人口逆ピラミッドは、介護の必要な高齢者を支えるうえで人材、財源の確保が困難になることが予想される。当市の対策について、以下質問する。

- (1) 今後10年間で予測される要介護者の推移を伺う。
- (2) 介護保険事業での課題と対策を伺う。

16. 4番 提坂大介議員 (一問一答)

1. 幼保園、学校での感染症対策について

私のところには、幼保園、学校での感染症対策は過度になっているなどと、子育て中の保護者から様々な声が届いている。昨年の9月定例会での私の一般質問において、「陽性者をゼロにすることは目指していない」と市長答弁にあった。大人が過度に新型コロナウイルスを恐れることにより、一番影響が出ているのは子供たちの教育環境である。そこで、以下質問する。

- (1) 市として教育と感染症対策のバランスはどのように考えているか。
- (2) 各学校や教育現場に保護者から様々な声が届いていると思うが、どのように受け止めているか。

2. 新型コロナウイルスワクチンについて

昨年2月から医療従事者、4月には高齢者へとワクチン接種が始まっている。3回目も今年2月から接種が始まり、次は5歳からの子供たちが狙われている。私は今でも今回の新型コロナウイルスワクチンに対し、疑問を持っている。そこで、以下質問する。

- (1) 市内において、ワクチン接種の副反応報告を行った数と症状、内容を伺う。また、死亡者がいたか伺う。
- (2) 5歳からのワクチン接種は何のために行うか伺う。